

諏訪市博物館・諏訪市美術館・諏訪市原田泰治美術館が連携して、夏休みの小中学生向けに、イベントを行いました。「学芸員のおしごと体験」というテーマで、学芸員が普段どのように美術館・博物館でおしごとをしているのか体験しました！



平成 23 年に、登録有形文化財に登録
されました。

まずは、参加して下さったみなさんに、諏訪市美術館の建物について解説をしました。この建物が建てられてから、今年で 74 年になります！参加したみなさんが生まれるずっとずっと前になります。壁には諏訪産の鉄平石がレンガ風に貼られています。登録有形文化財に登録され、文化財として守っていききたい建物です。



展示室でものを描くときは、鉛筆を使いま
す。これも守ってほしいルールです。



これは結界です。これより中には入らない
で下さいね！

次は展示室を観察します。展示室には作家が一生懸命作った、世界でただ一つしかない作品を守るために、お客様にお願いしているルールがたくさんあります。マークをみてわかるでしょうか。

諏訪市博物館・諏訪市美術館・
諏訪市原田泰治美術館
3館連携企画
「学芸員のおしごと体験」
報 告

学芸員のおしごとの 4 本の柱は「調査・研究」「資料の収集・保存・管理」「展示」「教育普及」です。

その中から諏訪市博物館は「調査」諏訪市美術館は「保存」諏訪市原田泰治美術館は「展示」の内容を中心に開催しました。そして、今回の「おしごと体験」のイベントの開催が、「教育普及」にあたります。

作品はなぜ大切にしなければいけないのでしょうか。作品を守るために、展示室にはどんな工夫があり、学芸員はどんなところに気を遣っているのでしょうか。

作品は置いておくだけで、どんどん劣化していってしまうものです。原因は、「空気（酸素）、温度、水（湿度）、光」です。学芸員は、出来るだけ作品が傷まないように、それらをうまくコントロールしていかなければいけません。

そのために、展示室には様々な機械があり、温度や湿度を調節したり、記録したりしています。



テープの貼り方にも工夫があります。

場所を移動して、次は作品をしまったり、運んだりするときの梱包方法を体験しました。作品を直接触るので学芸員にとっても、いつでも緊張感がたよう作業です。

まずは自分の手を洗います。身支度など、作業に入る前のチェック項目がたくさんあります。一つ一つ確認をして作業にあたります。作品の持ち方、置き方も、全て作品を傷めないように考えられています。

梱包材料は、薄葉紙やクラフト紙やエアパッキンです。見たことのあるものや、ないものがあつたのではないのでしょうか。

3館全て参加した人には、達成賞として、キッズ学芸員合格証をプレゼントしました。母親が学芸員、という参加者からは、「お母さんが美術館で何をしているかが分かった！」という声をいただきました。ご参加下さったみなさま、ありがとうございました！



これは温湿度計です。美術館の展示室で見かけることが多いです。



参加した館でスタンプを押します！



3館全て参加したよ！



達成賞をプレゼント！